

地域スポーツ指導者との連携による 武道（剣道）授業の在り方

学校名 下関市立内日中学校（山口県）全学年
全校児童生徒数 15名（男子6名 女子9名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 083（289）2431
学校メールアドレス
utsui-chu@edu.shimonoseki.yamaguchi.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 地域スポーツ指導者の専門的な指導により、生徒の意欲や関心が高まる授業を仕組む。
- (2) 剣道の歴史、礼法及び伝統的な行動の仕方について、より専門的に学ぶ。
- (3) 3年間の継続した取組により、効果的な指導の在り方を探り、教員の指導力の向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

2・3年生に、「剣道は痛い」「防具をつけるのが嫌だ」と消極的な考えをもつ生徒が若干名いる。また、初心者の1年生と昨年度まで経験のある上級生との間に、技術の差や運動に対する意欲の差がみられる。

(2) 期待される成果（仮説）について

地域スポーツ指導者の丁寧な指導により、武道の特性に触れ、より高度な技術を習得することができる。また、3年間継続した取組により、技能の向上に加え精神的な鍛錬が顕著にみられるようになる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 剣道に対する心構えや礼法、歴史などの資料掲示を工夫することで、生徒により徹底して伝えることができた。特に「惻隠の情」を意識させることで、相手への思いやりの気持ちが見られた。また、始めと終わりの黙想や礼を行うことで、礼儀の大切さを学ぶことができた。
- (2) 基本動作の習得のためのリズム剣道の実施などにより、生徒はより意欲的に取り組み、技能の向上が図られた。
- (3) 毎時間の学習内容や気づきの記録をとることで、生徒の課題や達成度が確認できた。
- (4) 少人数ではあるが、全学年で共修することで、教え合いの場や打ち合いの場など、多種の関わりがみられた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 毎時間の授業の始まりと終わりに、竹刀や防具の安全点検を行った。
2. 防具の付け方について正しい知識と技能を身につけさせるため、複数の指導者で確認し、徹底した。また、授業中に防具や竹刀等に不備が生じた場合は、すぐに適切な対応を行った。

○成果の意義と今後の課題

1. 2名の地域スポーツ指導者による授業で、生徒は意欲的に取り組むことができた。また、有段者への打ち込み稽古を体験することで、剣道の特性に触れることができた。
2. 生徒の評価について、地域スポーツ指導者に参考程度に聞くことができたが、評価の妥当性について、確認が必要であった。

○研究内容

【導入時の気の吐き合い】

気を高め、大きな動作と声で相手を倒す練習。



【リズム剣道】

2人組による、面、小手、胴の技能を身につけるリズム剣道。



【授業の始め・終わりの黙想】

背筋を伸ばし良い姿勢を保っての精神統一。



【有段者への打ち込み稽古】

指導者と有段所持生徒への本格的な打ち込みを体験。



【生徒の運動に対する意欲や達成感】

5項目中3項目で肯定的なとらえ方をしている

事前・事後のアンケート結果の肯定的回答の割合は以下のとおり。	(事前)	(事後)
1 運動が好きである (好き やや好き)	93.3%	→ 86.7%
2 運動は大切なものである (大切 やや大切)	80.0%	→ 86.7%
3 卒業後自主的に運動をしたい (思う)	86.7%	→ 86.7%
4 授業は楽しい (楽しい やや楽しい)	93.3%	→ 100.0%
5 授業以外でも役立てたい (そう思う ややそう思う)	73.3%	→ 80.0%

【生徒の体力向上と活気ある授業の工夫】

生涯を通じて運動に親しむ基礎を培いたい。

授業の始めと終わりの「着座での黙想、礼」の凜とした姿は、武道ならではの「礼儀」の大切さや相手を尊重する態度を身につける良い機会となった。また、地域スポーツ指導者と連携することで、剣道の特性を知ることや専門性を高めることにつながった。今後、他の種目においても、生徒が生涯を通じて運動に親しむ習慣を身につけるための礎を作りたい。